

【日本総研 技術価値創造戦略グループセミナー】  
**夢を語り実現する研究者になるための若手研究者セミナー**  
 ～一流の研究を知り、実践するためにすべきこと～

## 開催趣旨

本来、研究者や技術者とは、自ら作ったものが形になり世に出ることを創造して実現することの出来る実践者です。創造性を発揮するには、信念や拘り、確信、そして技術に対する目利きが必要と我々は考えます。本セミナーでは、信念を貫き通して世の中に夢を与えた研究者の方々からお話を伺い、日本発の研究開発・事業開発のあり方を問います。

学会等で最新の研究発表を聞いた後には「追試」を行うと思います。一流の研究者がやってきたことを「追試」し、自らの研究生活と比較してみてください。創造的な研究をするにはどうすれば良いのか？ この「追試」はこれからの研究人生に必ず役立つはずで

日時	2009年4月17日(金) 10:00~16:30
会場	大手町サンケイプラザ301-3号室
対象	大手メーカーの若手研究・開発担当者
定員	先着100名
受講料	お一人様5,250円(消費税込・昼食付)
主催	株式会社日本総合研究所

<日本総合研究所 技術価値創造戦略グループとは>

日本の大手製造業の研究開発部門や製造部門に埋もれた「技術」を掘り起こし、技術者と正面から向かい合いながら「技術」の本質を突き詰め、その本質を起点に事業の新たな絵姿を描くことによって、事業としての「価値」を「創造」することを実践しております。

## プログラム

10:00-10:10 挨拶

株式会社日本総合研究所 総合研究部門 技術価値創造戦略グループ ディレクター 時吉 康範

10:10-11:40 講演 高速G型プラスチック製光ファイバーを生み出した信念と拘り、確信

慶應義塾大学 教授 小池 康博(プラスチック光ファイバーコンソーシアム会長、他多数)

「最初の直感に徹底的に拘る」「壁にぶつかった時に根元的な原理に立ち戻る」「実際にモノを作り世に問う」世の中に望まれている課題を正面から捉え、出来る研究ではなく必要とされる研究を続け、光散乱の新しい原理に到達し、高速G型プラスチック製光ファイバー、液晶ディスプレイ用導光板を発明した。  
 <2008年8月 NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演>



12:40-14:10 講演 ケンブリッジの変容から学ぶブレークスルーのイノベーション理論

同志社大学 教授 山口 栄一(ケンブリッジ大学クレアホール・客員フェロー  
 (株)アークゾーン, (株)パウデック, ALGAN(株)取締役)

2009年3月まで1年間ケンブリッジ大学に滞在し肌で感じたケンブリッジの変容をお伝えする。さらに、ケンブリッジで起きた光と影を教訓にして、ブレークスルーのイノベーション理論を展開する。その議論に基づいて、技術の「目利き力」とは何なのか、それをもつ人間をどのように育成できるかを語る。  
 <日経Tech-On「技術経営戦略者」で、「技術の目利き力とは何か」を連載中>



14:30-16:00 講演 人生を賭けた半導体材料と光素子の研究開発 ～赤外から青色へ

東北大学 教授 松岡 隆志(元NTT物性科学基礎研究所 主幹研究員)

「誰もやっていないことをやる」「システム応用を鑑みた材料・素子開発」  
 現用の光ファイバ通信用半導体レーザー開発後、20年以上前に窒化物半導体の研究を開始。部下から結晶成長法の教えを請うてから、本物の青色を出すために、GaInInを混ぜることを着想。しかし、Inを混ぜることが出来ない。従来の薄膜結晶成長では非常識な原料輸送ガス種への転換と大量のアンモニアを流すことで解決。青色実現に向けて最大の障害と考えていたInGaInの単結晶の作製に成功。そんな折、3M事件によりGaInからZnSeの開発へ変更せざるを得なくなる。。。そしてまた今、光通信へ。



16:00-16:30 総括 一流の研究成果とその事業化

株式会社日本総合研究所 総合研究部門 技術価値創造戦略グループ 副主任研究員 松永 孝